

<喜びの訪れ> ルカの福音書 1 章 5-25 節

私たちの苦しみ（ローマ人への手紙 7:19）

『私は、自分でしたいと思う善を行なわないで、かえって、したくない悪を行なっています。』・・・けれども御使いはこう告げてくれた。

『私は神の御前に立つガブリエルです。あなたに話しをし、この喜びのおとずれを伝えるように遣わされているのです。』

自分自身の中には見つけられなかった確かな救いが、外からやって来た。神がご自分の意思に従って天から御使いを遣わし、「あなたに喜びが訪れる」と告げていて下さる。

祭司ザカリヤ：神殿で礼拝が捧げられる時には、24ある組ごとにその祭司の務めを果たしていた。神殿の一番奥の聖所でお香をたいて、礼拝の儀式を執り行うのは、選ばれた祭司だけ。ザカリヤがくじを引くとなんと自分がその務めに当たった。一生涯に一度あるかないかの名誉ある大仕事。

ところが、そこに神の御使いが現れて告げたのは、「喜びの訪れ」だったが、、、

御使いが告げた言葉を信じなかったザカリヤは、神に沈黙を強いられた。

聖書は神の言葉、つまり聖書の御言葉に耳を傾けることの大切さを教えている。

『みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます』（ヤコブ 1：21）

『まことに主は渴いたたましいを満ちたらせ、飢えたたましいを良いもので満たされた』（詩篇 107:9）

17 節『こうして整えられた民を主のために用意する』・・・神様の救いを受けるための準備は、神の御前に沈黙して、御言葉に耳を傾けること。神の方に向き直すことです。それこそが悔い改め。洗礼者ヨハネが、後から来られる救い主イエス・キリストの道備えをするために人々に向かって語り続けていたのはこの悔い改めだった。

詩篇 62 篇『私のたましいは黙って、ただ神を待ち望む。私の救いは神から来る。神こそ、わが岩、わが救い、わがやぐら。私は決して、ゆるがされない。』

様々な出来事の中で、言葉を失ってしまったかと思うような私たちの唇に、神が賛美の歌を与えて下さる奇跡を体験させて下さる。神に信頼を置いた信仰者たちは、みなそのようにして神の訪れを知った。